

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和7年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。常に利用者中心にケアを行っています。利用者にも楽しんで頂くために、様々なイベントを行ったり、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いております。地域連携に関しては、令和5年度より少しづつですが交流も行っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広大な敷地に高齢者から乳幼児まで様々な施設が点在し、その一角に建つホームは散歩する園児に手を振って見送るなど異年齢交流として入居者の日々の楽しみとなっている。開所時よりホームに理解のある地元の中・高校や支援学校との相互交流は継続されており、互いの行事に行き来したり、法人による高校の福祉体験には半年に渡り同じ生徒を受け入れ、実体験を通して福祉の現状を学んでもらうこととしている。入居者により多くの人々との出会いの場を求めて移動販売車での衣類の購入を企画したり、馴染みの花の名所に足を運びながら入居者の地域での暮らしを支えている。職員は個人の年目標を立て、それらに向かって研鑽を積み、ホームとしての年目標には本年度家族会の立ち上げを検討しており、家族意見を吸い上げる機会とし、入居者、家族、職員が一堂に顔を合わせる事で更なる連携を図りたいとしている。今後の展開が待たれるところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作成する。その思いを忘れない様1年に1回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。	理念の中には入居者を取り巻く全ての人々を通じてその人らしく笑顔で生活してもらいたいとする職員の思いが込められている。地域交流も再開されており、これまでのパンの移動販売や新たに衣類の訪問販売に来所を依頼した際には入居者自身で選択されるなど人や地域資源を入居者の生活に取り入れるようにしている。	理念塾は職員が理念を通じて自身のケアを振り返る機会として定着しているが、本年度は感染症のために開催が出来なかったようである。年度末には是非ホーム内で理念に立ち返る機会をもたれることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様9月にふれあい祭りを開催し地域の方々との交流をすることが出来た。その他、交流に関しては昨年度同様に運営推進会議を開催して地域の方々との交流を行っている。	法人主催の“ふれあい祭り”には地域の人々や関係者など多数の参加がっており、参加者の駐車場には地元小学校の協力が得られている。開所以来続いている支援学校や地元・高校との相互交流は継続されており、職員は入居者の大半が参加される行事にはピストン輸送で送迎し、地域交流の機会を支えている。半年をかけて職場体験に訪れる学生とのおやつ作りなど、入居者はひ孫のような生徒とのひと時を楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も昨年同様運営推進会議を開催し地域の方々との交流を行った。又、地域の中学生・高校生の職場体験や大津町のワークキャンプ希望者を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議を開催し、地域の方々との交流を行った。会議内で入居者の状況、事故事例の報告・外出行事の報告等を行い、研修内容では移動式浴槽のデモ機の見学や実際に日頃の食事やとろみをつけた飲料を体験して頂く等、意見交換や地域との交流を行っている。	会議は対面で法人が運営する地域密着型施設と合同で開催している。行政をはじめ医療機関や地域、交流のある学校関係者など多方面からの参加があり、専門的な立場から意見や提案を得たり、講師による体験研修なども行われている。時には実習に訪れた生徒による座ってできる“健康体操”なども披露されている。	会議には地域や関係者など多くの参加が得られているものの、家族の参加がなく新年度に向け、文章や口頭での参加の呼びかけを期待した。また参加者については会議が法人の別棟で実施されていることから、年度初回の会議などにホームの室内環境や入居者の普段の様子を見てもらうことで、会議内容への理解につながるものと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。	運営推進会議には行政や地域包括の職員が参加しており、ホームの現状を発信しながら相談事や質問などに応じてもらいホーム運営に反映させている。事故報告書などの提出は直接役所に出向き、研修会の案内には内容を検討し職員が参加している。認定調査時には担当者に先ずは入居者に会ってもらい、聞き取りの後に職員が同席して捕捉し、普段の姿を見てもらうこととしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、夜間の玄関施錠を除いては、原則、行きたい時に行きたいところに行って頂く支援しており、身体拘束をしないケアはできている。	身体拘束について法人の全体研修に参加し、職員の意識強化を図り拘束についての正しい認識をもつようにしている。日中の玄関はオープンにしており、入居者の動きを静止することなく後方から見守り、危険回避にセンサーを使用する場合には、家族の了承を得てプランに入れ、経過報告を行うこととしている。言葉使いに関しては一人に対応する時などどうしても入居者に待ってもらう時があるとして、その際の対応や言葉選びには十分注意を払うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。今後は、必要性がある方等が出てきた場合は、それらを活用しながら支援を行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧にご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時やケアプラン会議時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。	面会やケアプランの説明時、電話でのやり取りを通して家族の意見や要望を引き出すようにしている。家族へは毎月の便りに入居者の近況を個別の写真で伝えており、散髪中の微笑ましい姿に安堵されているようである。入居者の要望は普段の会話の中から聞き取り、出来る限り本人の思いに添うようにしている。	管理者は今後の取組の一つとして家族会の立ち上げを検討しており、家族の協力を得ながら実現に向け取り組まれることが期待される。また会の立ち上げ後には運営推進会議の情報などについても口頭にて説明されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見、目標達成に向けた提案等を積極的に取り入れる環境づくりに努めている。	職員は個別の”目標管理シート”に年目標を立てており、管理者が年2回の面談の機会に個人目標についても現状を聞き取り、本人の励みとなるような提案をしている。職員が普段から意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めており、ケア向上や業務改善に向けた提案にもできる限り対応している。管理者は自ら入居者の地域交流や外出の機会を提案し、職員とともに入居者の日常を支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推進している。又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICTを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話し、性格や生活歴を聞いたうえで、ご本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話しをしている。身体拘束を行わない事により、様々なリスクがあることなども、全てお話した上で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、入居者を認知症と思わず、まずは「人」としての尊厳をもって対応するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話や毎月1回写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近状報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々とお互いに面会をされており、また、ドライブで町内の馴染みのある場所へ出掛けたりしている。	入居者との日頃の会話から聞かれた思い出の場所や馴染みのおやつ、花見学などには地域資源を活用して出かけている。入居者にとって日々の生活に欠かせない場所であった川の景色を見に出かけた際には本人はもとより家族からも感謝の言葉が寄せられている。法人を利用する知人との面会や教え子の来所、敷地内を散歩する園児の見送りが日常的な一コマとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲がいい入居者同士を一緒に席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた入居者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある入居者様をお連れしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。	職員は入居者との日々の関わりの中から収集した思いを共有し、可能な限り個別支援に反映するようにしている。身体状況から意思表示の難しい方には表情やホームでの暮らしぶり、家族からの情報をもとに本人本位とするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の過去のサービスの利用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今出来ることなど、入居者を傷つけないように配慮しながら、ご本人が出来ることはして頂くなどの日常的な中にも役割を見出しながらケアを行っている。入居者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況をアセスメントしながら生活課題を明確にし、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。	プラン作成にあたりケアマネジャーは入居者・家族の意向を優先し、職員の声を反映して立案している。入居間もない方に前施設の担当者が尋ねて来られた際にはこれまでの生活ぶりや病状などについて話を聞くとともにホームでの様子を伝えており、入居者の姿を見て安心されている。プランには入居者が発した言葉をそのまま明記し、これからの本人の生活が安定したものとなるような内容をあげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(入居者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や入居者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に努めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同グループ保育園との交流や地域の中学生・高校生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携をしながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。	全員が協力医療機関をかかりつけ医とし月1回の訪問診療と週1回の訪問看護支援を受けている。受診結果については、薬の変更や何か異常などがあれば速やかに家族へ報告しているが、何もなければ面会時などに伝えている。口腔ケアへの取組は毎食後の歯磨きや義歯の洗浄・管理に努め、治療が必要な方には家族へ相談した後、訪問診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。また、地域連携室との連絡調整、情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。	入居時に重度化・終末期支援についてホームの取組を説明し、その時点での本人・家族の意向を聞き、入院や変調があればその都度確認している。この1年間で最期は医療機関であったがギリギリまでホームで過ごされた方や家族の協力により亡くなられる前月に自宅や思い出の場所(山・川)にドライブ帰省を支援するなど本人や家族の思いに応える最終の支援が行われている。重度化・終末期支援についてはホームの方針を共有しながら研修の機会がもたれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行っている。また、BCP策定後、本年度は感染や自然災害等への机上訓練を実施している。なお、今後は地域との協力体制について市町村と相談、やり取りを行いながら、体制作りに努める。	年2回昼・夜を想定した火災避難訓練と、今年度はBCP策定後職員間で共有し、感染や自然災害の机上訓練も実施されている。運営推進会議の中でも災害時での薬剤師の役割について講和されている。食料備蓄は法人栄養士が管理し、排泄用品をはじめ他の備蓄は敷地内の別棟で法人全体で管理している。日々の安全チェックは日誌の中で当直者が中心に行っている。	強固な建物がいくつも存在する福祉村であり、引き続き行政と連携しながら地域の避難所としての活躍が期待される。また家族にも参加を呼びかけながら運営推進会議を活用した避難訓練なども良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域で開催される認知症の勉強会に積極的に参加をしている。本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。一人の人として尊重し、その方の立場に立ったケアを行うことを徹底している。	一人ひとりを尊重しその方の立場にたったケアの実践について、日頃から周知徹底の機会が持たれている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、会話もわかりやすい方言を交えながらも馴れ合いにならないよう十分注意を払っている。身だしなみやおしゃれも希望を尊重しながら衣服の選択や整容などできる事を見守ったり、必要なサポートに努めている。今年度訪問衣料販売を計画し、好みの衣類を選んだり、雰囲気を楽しまれるなど好評であったことが聞き取りからも確認された。	衣類の訪問販売企画は入居者にとって嬉しい時間であったと思われる。今後は地域衣料品店などを利用した衣服の購入の機会も良いと思われる。外出支援も兼ね取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい入居者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待つ頂く事はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今年度は洋服の移動販売を施設内で開催し購入しなくても洋服を見る機会を設け、雰囲気を楽しんで頂くことができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もある。家庭的な雰囲気での食事に努めている。今年度は農園や花壇の設置が予定通りにはいかず、一緒に収穫し、旬の野菜を一品提供できるように考えていたができなかった。来年度に向け敷地確保も出来ており、栽培や収穫が出来るように努める。	主菜・副菜などはチルド食を活用し、ご飯と汁物はそれぞれにユニットが献立を作り職員による調理が行われている。月ごとの誕生会では希望食を準備したり、おやつ作りやデザートビッフェ、時には寿司などのテイクアウトも取り入れている。管理者は野菜作りにも取り組み、苗植え、水やり、収穫した後は食事の一品としての活用など入居者の食への楽しみを広げたいとしている。	検食簿の記入については、入居者の代弁者としての一言など次回に活かせるようなコメントがあると良いと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年度より水分・食事摂取量のチェックを行っている。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、ご本人に声掛けし、ご自身で歯磨きをして頂いている。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもある。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にももって頂き、口腔清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を生活動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、自立の方の継続や必要な定時の声掛け、誘導が行われ、現在全員がリハビリパンツを使用されている。トイレはユニットに3か所設けられ、使い慣れた場所やその時で近い場所に誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用される方が2名おられ、安眠等の点から翌朝に廃棄し清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・ミルミル・ジョア・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から入居者に合った食材を見つけ出す工夫を行い排便困難予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。気分が乗らなかつたり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日入浴出来ていないが週3回の入浴(陰部清拭衣類更衣1回/週含む)を実施している。	入居者に入浴の意向を確認し、週2~3回の支援が行われている。拒否がある場合は翌日への変更など無理強くないように入ってもらえるようにしている。岩風呂の温泉や機械、シャワー浴、個浴を揃えているが、個浴が安心される方もおられるようである。浴槽内は安全に入れるよう(特に岩風呂)滑り止めマットなどを視覚に配慮してその都度設置している。	温泉浴室は広く管理も大変と思われるが、窓の棚に置かれた物品については、安全面からも別の場所で保管することで景観も良くなると思われる。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いしないようにしている。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師が毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化等に気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認し状態観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員は付添い見守りを行い、行先は利用者にお任せしている。今年度はコスモス見学実施し、1月には阿蘇神社参拝の外出を予定しており、外出先で家族の方々と会って頂く為サポートしていく。今後も外出の機会を増やし支援していく。	外出は計画的なものだけではなく、その日の職員配置や入居者の状況を見ながら支援している。敷地内の桜をはじめ、花見(つつじ・紫陽花・コスモスなど)外出に出かけている。また交流のある支援学校のイベント「ふれあいサンデー」には、入居者数名ずつをピストン送迎で参加し、おやつ購入などを楽しまれている。また、夏には夕食後に花火を楽しむ機会も持たれている。感染症の状況を見ながら年末に本人や家族の思いから自宅へ帰省された方もおられる。	家族と現地集会で計画した阿蘇神社への外出は感染症などの影響から実施に至らなかったようである。家族も楽しみにされていたと思われ、別の形で実現されることを期待したい。管理者との聞き取りや目標達成計画からも敷地内の菜園の活用など入居者の身近な外出から楽しみにつなげたい思いが伝わってくる。今後の取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3,000円までご自分で保管できる体制を整えている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。	ホーム外玄関に置かれた手作りの掃き帚は懐かしく、温かみを感じられる。左右に配置されたユニット内はそれぞれの職員がアイデアを出し、七夕の願い事やクリスマスをはじめ入居者も一緒に季節の飾りつけや壁面制作を行っている。リビング内は思い思いの時間を過ごせる様、入居者の相性や関係性に配慮しながら席の配置を検討したり、楽しみ事が持てるようにしている。阿蘇の山を望めるホームであり、元旦にはリビングから初日の出を拝まれた方も数名おられるようである。	玄関内に置かれた飾り物や植木類なども定期的に傷みなど確認する事で更に寛げる環境につながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなきに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、入居者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要ときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきて頂けるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきて頂けるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂けるように配慮している。	居室にはベッド、エアコン、三段ボックスが備わっており、本人が安心されるよう私物や何でも(火気、動物以外)持ち込んで欲しいことを伝えている。家族や思い出の写真、着慣れた衣類をはじめ、仏壇を持ち込まれた方もおられる。必要な品を尋ねる家族や面会時に衣替えをされる家族もおられるが、難しい場合は職員が代行し、季節外の寝具などホームでも預かっている。	コロナ5類移行後も以前のように家族がゆっくり居室へ入る機会は難しいようである。居室の様子や職員の取組(掃除や収納ボックス内の確認など)を家族へ伝える事で安心につながると思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、入居者の行動を見極め、テーブルやソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和7年1月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和7年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。常に利用者中心にケアを行っています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行ったり、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いております。地域連携に関しては、令和5年度より少しづつですが交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作製する。その思いを忘れない様1年に回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様9月にふれあい祭りを開催し地域の方々と交流をすることが出来た。その他、交流に関しては昨年度同様に運営推進会議を開催して地域の方々との交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も昨年同様運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。又、地域の中学生・高校生の職場体験や大津町のワークキャンプ希望者を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も運営推進会議を開催し、地域の方々と交流を行った。会議内で入居者の状況、事故事例の報告・外出行事の報告等を行い、研修内容では移動式浴槽のデモ機の見学や実際に日頃の食事やとろみをつけた飲料を体験して頂く等、意見交換や地域との交流を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、夜間の玄関施錠を除いては、原則、行きたい時に行きたいところに行ってもらう支援しており、身体拘束をしないケアはできている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。また、外部研修会にも参加し生徒の理解を深めることに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧にご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時やケアプラン会議時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見、目標達成に向けた提案等を積極的に取り入れる環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。 研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICTを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話し、性格や生活歴を聞いたうえで、本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話している。身体拘束をしないので、当然いろいろなリスクがあることなども、すべて話して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者を認知症と思わず、まずは「人」ということを考え行動するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話や毎月1回お写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近状報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々とお互いに面会をされており、ドライブで馴染みのある場所へ出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲がいい利用者同士を一緒に席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた利用者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある利用者様をお連れしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の過去のサービスの使用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど、利用者を傷つけないように配慮しながら、出来ることはして頂くなどの日常的な中にも役割を見出しながらケアを行っている。 利用者のやりがい作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況をアセスメントしながらケアに当たっていき、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に務めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流や地域の中学生・高校生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携をしながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は行っており、BCP策定後、本年度は感染や自然災害等への机上訓練を実施している。又、地域との協力体制について市町村とやり取りを行い、体制作りに取り掛かりたいと思っており、今後、相談をしていく予定。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域で開催される認知症の勉強会に積極的に参加をしている。本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。認知症の前に一人の人だと言うことを徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい利用者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待つ頂く事はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今年度は洋服の移動販売を施設内で開催し購入しなくても洋服を見る機会を設け、雰囲気を楽しんで頂くことができた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好きな物を聞き、メニューに反映している。(ピザ、寿司等)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本年度より水分・食事摂取量のチェックを行っています。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供をすることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は、本人さんに声掛けし、歯磨きをしていただいています。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもあります。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にもものっていただき口腔清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛けを行い、トイレ誘導行っている。トイレでの排泄を生活動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように介護行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・ミルミル・ジョア・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から利用者に応じた食材を見つけ出す工夫を行い排便困難予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。気分が乗らなかつたり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日入浴出来ていないが週3回の入浴(陰部清拭衣類更衣1回/週含む)を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いをしないようにしています。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師さんが毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化などに気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認し状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員はついていだけで、行先は利用者にお任せしている。本年度はコスモス見学実施し、1月には阿蘇神社参拝の外出を予定しており、外出先で家族の方々と会っていただく為サポートしていく。今後も外出の機会を増やし支援していく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3000円までご自分で保管できる体制を作っている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、利用者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきていただけるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂け得るように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、利用者の行動を見極め、テーブルの配置やソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		